

施策評価シート（評価対象年度：令和5年度）

基本政策	1	子育て・教育・学び
主要施策名	3	結婚・妊娠・出産しやすい環境づくり
5年後の まちの姿	○若者が結婚・妊娠・出産の希望を叶え、市内には新しい家族や子どもが多く暮らしています。	
施策展開の 基本的な考え方	行政は、結婚・家族の在り方等に関する啓発を行うとともに、結婚・妊娠・出産に関する市民の希望を叶えるサポートを行います。 市民等は、若者に対するライフデザインの学びの機会や出会いの場にもなるような空間・イベントづくりに協力します。	
実現に向けた 取組	①市民が参加しやすい多様な学習機会の提供 ②市民による自主的な活動の育成・支援 ③活動拠点の整備	
施策担当課	総合政策課	
施策関係課・係	健康づくり課 子育て応援係	

I 施策の実施状況

1 施策全体の事業費

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業費（千円）	4,117	6,032			
事務事業数	2	2			
うち、事務事業評価対象	1	1			

2 成果指標の達成状況

指標	単位	基準値	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和8年度 最終目標
出会い等に関するイベント等の市民参加割合	%	23.9	20.9	19.6				30.0
ライフデザインセミナーの参加者数〔年間〕	人	97	46	53				100
出産後、助産師・保健師等からの指導を十分に受けることができたと答える人の割合〔年間〕	%	96.7	95.8	95.5				97.0

成果指標による 現状分析	<p>出会い等に関するイベント等の市民参加割合については、平年並みの実績である。令和5年度の募集人員80人に対して63.8%の集客という状況であった。市報、HP、SNS、チラシ、ポスターなどの媒体で周知に努めている。</p> <p>ライフデザインセミナーの参加者数〔年間〕については、2つの事業を行った。ライフデザインセミナーでは、平年並みの実績である。令和5年度の募集人員50人に対して43人（86%）の集客という状況であった。市報、HP、SNS、チラシ、ポスターなどの媒体で周知に努めている。</p> <p>赤ちゃんふれあい教室では、中学校へ事業の周知や参加の声かけを行い10人の参加があった。遠方からの参加者には、送迎車の手配をするなど参加しやすい環境づくりに努めた。参加者からは「生命の尊さを学ぶことができた」「育児は大変というイメージがあったが、大変ながらも楽しくやりがいがあるというイメージに変わった」などの声が聞かれ、今後も継続して事業を実施していく必要がある。</p> <p>出産後、助産師・保健師等からの指導を十分に受けることができたと答える人の割合〔年間〕については、妊娠届出時に保健師や助産師が面談を行うほか、妊娠7か月目のアンケートや妊娠35週目の電話連絡を全ての妊婦に行っている。このことにより、出産後の新生児や産婦への訪問支援がスムーズに行われ、目標に近い結果が得られていると考える。アンケート結果の満足度では、数人が「どちらともいえない」と回答していた。これは、「出産後」に含める期間を「産後概ね1か月程度」と設定しているため、未熟児での入院や、支援のタイミングが1か月を超えるケースもあり、そのために産後概ね1か月以内に支援を受けられないことがあるのが一因だと考えられる。</p>
-----------------	--

3 施策の進捗状況

達成度	△やや遅れている
評価の理由	<p>◆出産後、「助産師や保健師等からの指導を十分に受けることができた」と答える人の割合は、ほぼ目標値に達している。一方、出会い等に関するイベントやライフデザインセミナーの参加状況は、基準値に対して伸び悩んでいる。考え得る周知を尽くしているが、今後は更なるアウトリーチにより必要な人に必要な情報を届けることが求められる。本事業の認知度を向上させ、参加状況の改善を図るとともに、事業の在り様が真に求められているものとなっているのか絶えず検証していく必要がある。</p>

4 取組の状況と今後の方向性

① 出会いの場づくり

施策の内容
<ul style="list-style-type: none"> ・県事業である「ハートマッチにいがた」を通じて、登録者の出会いをサポートします。 ・定住自立圏事業として、婚活イベントや個別相談会等を開催します。
これまでの主な取組と実績
<ul style="list-style-type: none"> ◆「ハートマッチにいがた」については、市報やHP、SNS、ポスター掲示により周知を行ってきている。令和5年度からは登録料の半額助成制度を開始した。R5: 3人 ◆市単独では集客に限界があること等を踏まえて定住自立圏として2市1町で取り組んでいる。◆【婚活イベント】R4: 2回開催、67人（うち市内 男性7人、女性7人）、R5: 2回開催、51人（うち市内 男性5人、女性5人）◆【個別相談会】R4: 4回開催、29人（うち市内 男性5人、女性1人）R5: 4回開催、25人（うち市内 男性3人、女性0人）◆【ハートマッチ共催】R4: 8回開催、60人（うち市内 男性9人、女性2人）、R5: 8回開催、31人（うち市内 男性12人、女性1人）
主な課題と今後の対応
<ul style="list-style-type: none"> ◆真に情報を必要とする人に届くようにすることが課題であり、効果的な方法を検討し、更なるアウトリーチを行っていく。

② 結婚・妊娠・出産への意識醸成と支援

施策の内容
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・学生や未婚者を対象にライフデザインセミナー等を開催して、若者が結婚・妊娠・出産を含めた将来の人生設計を前向きに考える後押しをします。 ・子育てや教育等に関する支援制度のPR、検診及び医療費の助成等を行うことで不安感や負担感の軽減を図ります。
これまでの主な取組と実績
<ul style="list-style-type: none"> ◆市単独では集客に限界があることなどを踏まえ、定住自立圏として2市1町で取り組んでいる。 【ライフデザインセミナー】R4: 2回開催、46人（うち市内 男性4人、女性3人）、R5: 2回開催、43人（うち市内 男性3人、女性1人） ◆妊婦全員に対し、妊婦一般健康診査の受診費用を助成し、全ての妊婦が必要な健診を受診できるよう支援している。また、妊産婦医療費助成事業を行い、妊娠・出産期の医療費負担の軽減を図っている。
主な課題と今後の対応
<ul style="list-style-type: none"> ◆真に情報を必要とする人に届くようにすることが課題であり、更なるアウトリーチが可能となるよう、効果的な方法を検討していく。 ◆妊娠期から子育て期までの健診費用や医療費助成を引き続き行い、安心して子どもを産み育てられるよう支援を行っていく。◆妊娠届時の健康相談を全妊婦に実施し、支援を要するケースを早期に把握できるようにしている。今後も相談体制の充実を図り、関係機関との連携を密にし、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を行っていく。

③ 妊娠・出産を支える相談・医療体制の充実

施策の内容
<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期からの切れ目のない相談しやすい関係づくりやパパママ学級の実施により、手厚い相談・支援体制を構築し、妊娠・出産に対する不安の解消や母子の健康の増進を図ります。 ・安全で安心できる妊娠・出産のため、市内及び周辺の医療関係者と連携を図りながら周産期医療体制の整備に取り組みます。
これまでの主な取組と実績
<ul style="list-style-type: none"> ◆妊娠届出時から出産までの間、保健師又は助産師が面談や電話、アンケート等で全妊婦の状況や困りごとを把握し、必要な助言を行っている。◆パパママ学級では、妊娠・出産・子育てに関する知識だけでなく、病院では体験できないママ同士やパパ同士の交流、妊婦疑似体験なども行っており、参加者から好評である。 ◆妊娠届出後、支援が必要な妊産婦については医療機関と連携し、情報共有や支援内容・支援方法の検討を行い、安心して出産や子育てができるよう体制を整えている。
主な課題と今後の対応
<ul style="list-style-type: none"> ◆出生数は減少しているが、支援が必要な妊産婦は増加している。妊娠届出時から丁寧に関わり、関係性を築いて支援しやすい体制を整える必要がある。◆パパママ学級は参加者からは好評であるが、参加者数は増加していない。多くの方に参加してもらえるような工夫が必要である。 ◆当市には産科や専門医療機関がなく、社会資源も少ないため、利用できるサービスが限られている。出生数は減少しているが、支援が必要な妊産婦は増加しているため、関係機関との連携をはかりながら、安心して出産や子育てができるよう体制を整えていく必要がある。

5 施策の今後の方針

施策方針	◎拡充
施策方針に関する説明	<ul style="list-style-type: none"> ◆結婚したい人が成婚に至ることのできるように環境を整えるとともに、安心して出産、子育てができるようにすることが、長い時間軸の中で少子化対策に資するとの施策方針のもと、4に掲げる取組をそれぞれ実施し、体制を整えている。各事業の参加者には好評を得ているが、いずれも参加者数の伸び悩みが見られる。これまで考え得る周知を尽くしているところであるが、今後更なるアウトリーチにより必要な人に必要な情報を届け、本事業の認知度を向上させ、参加状況の改善を図ることのほか、そもそも事業の在り様が真に求められているものとなっているのか絶えず検証しつつ拡充を図っていく必要がある。

II 施策を構成する事業等

事業 コード	事務事業名	R5 事業費		R6 当初予算額		達成度	今後の 方向性	担当課
			うち 一般財源		うち 一般財源			
130210	ライフデザイン支援事業	3,544	832	3,553	928	◎	③	総合政策課

事務事業評価シート（評価対象年度：令和5年度事業）

事業コード	130210	
事務事業名	ライフデザイン支援事業	担当課 総合政策課 担当係 企画政策係 担当者
基本政策	1 子育て・教育・学び	事業年度 令和5年度 会計区分 一般会計
主要施策	3 結婚・妊娠・出産しやすい環境づくり	大 13 結婚・妊娠・出産しやすい環境づくり 中 02 結婚・妊娠・出産への意識醸成と支援 小 10 ライフデザイン支援事業
事務区分	法定受託事務 自治事務 ○ 根拠法令 法令による義務付け 任意 関連例規	科目 02 総務費 01 総務管理費 06 企画費
		関連計画 胎内市まち・ひと・しごと創生総合戦略

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	若者が結婚・妊娠・出産・子育てなど将来の人生設計を具体的に考える後押しをするため、新発田市・胎内市・聖籠町定住自立圏婚活支援事業として、ライフデザインセミナー、パーティ、個別相談会等を広域連携して実施する。費用は負担金として新発田市に支払う。
主な実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 定住自立圏婚活支援事業（婚活イベント、ライフデザインイベント、個別相談会及びハートマッチにいがた臨時窓口） 結婚記念祝品の贈呈 ハートマッチにいがたの紹介、ハートマッチにいがた入会登録料補助金 たいない交流・出会いサポートメールの運営 結婚新生活支援事業補助金
実施方法	市が直接実施＋委託

4 達成度

達成度	令和4年度 ○	令和5年度 ◎	令和6年度	令和7年度	令和8年度
評価の理由	◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない 産出指標の講座・イベント等開催回数については、前年度と同程度の回数での実施となったが、全体の参加者数が伸び悩む中で、市民参加割合については、目標をわずかに上回ることができた。				

5 主な取組と実績（令和4年度～）

[R4] 徐々にコロナの中でも通常の生活を行っていく流れができてきたことから、感染対策を講じた上で安心して参加していただけるよう周知し前年度よりも開催数を増やすことができた。国・県の補助金を活用し、新たに結婚新生活支援事業補助金を開始し、結婚生活の金銭的不安への軽減を図った。
[R5] 開催回数については、前年度並みとなったが、周知により若年層や女性に興味を持ってもらえるよう内容に工夫をし、ある程度市民に興味をもってもらえたと言える結果となった。結婚新生活支援事業について継続して実施し、周知により昨年度より多くの申請があった。県主催のマッチングシステム・ハートマッチにいがたの登録料の半額助成を新設し、登録の促進をはかった。

2 事業費の状況（令和5年度以前は実績値、令和6年度は当初予算額）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
総事業費（千円）	1,188	3,544	3,553		
国・県支出金	951	2,712	2,625		
地方債	0	0	0		
その他	0	0	0		
一般財源	237	832	928	0	0
人件費（千円）	787	787	0	0	0
正(h) ※事務費 ※委任(h) ※業務費	420	420	0	0	0
総事業費＋人件費	1,975	4,331	3,553	0	0
財源「その他」内訳	・定住自立圏婚活支援事業負担金156千円（新発田市へ）				
事業費の主な支出内容					
算出方法	経費（結婚新生活支援事業補助金を除く）／胎内市延べ参加者数（205千円／43人）				
実績	令和4年度 4.7千円	令和5年度 8.7千円	令和6年度	令和7年度	令和8年度

6 協働の状況

協働の状況	実施
具体的な状況	新発田市・聖籠町との共同事業であり、経験を有する事業者へ委託している他、包括連携協定に基づく連携として民間企業と連携してイベント周知を実施している。

7 事業の課題

定住自立圏事業として実施しており、婚活イベントや個別相談会への市民申込みは一定数あるものの、事業をきっかけとして結婚に至るまでに数年を要することから、正確な成婚数の把握が困難であり、把握できた範囲では結婚に至る者が増えないことが課題として挙げられる。市民参加割合については一定程度あるものの、コロナ禍で落ち込んだ参加者の全体数がコロナの制限がなくなっても伸び悩んでおり、特に女性の集客について大きな課題となっている。

3 指標値の状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
産出指標	名称	講座・イベント等の開催数	講座・イベント等の開催数	講座・イベント等の開催数	講座・イベント等の開催数
	目標	21回	21回	21回	21回
	実績	16回	16回		
成果指標	名称	講座・イベント等の市民参加割合	講座・イベント等の市民参加割合	講座・イベント等の市民参加割合	講座・イベント等の市民参加割合
	目標	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%
	実績	19.2%	21.7%		
	目標比	96.0%	108.5%		

8 課題解決に向けた今後の取組

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
今後の方向性	③	③			
	イベント後に徴取しているアンケート調査の結果に基づき、事業の内容を適宜見直ししながら、結婚を希望する者は結婚につながるような事業を展開していく必要がある。イベントの参加者自体の伸び悩みについては、これまでのやり方とのとられない魅力的な企画を考えていくとともに、現代に即した方法で、SNS等も活用しながら、必要とする人へ届くような情報発信をしていく。イベント後のアフターフォローについても、よりきめ細やかに必要とする支援ができるよう適切な方法を見直しながら行っていく。				

9 二次評価委員会所見

	今後の方向性				
成果の方向性	拡充	④	②	①	
	維持	⑤	③		
	縮小	⑥			
	休廃止	⑦			
	削減	縮小	維持	拡大	
	コスト投入の方向性				